



入居者の身体状況がひと目で分かるようにした大型のホワイトボード。職員が情報共有する生命線になった。いずれも提供写真。一部は加工しています。



※1月31日以降の新たな感染者はなく、累計数に変わりはない

# クラスター発生 33日間の苦闘

## 特養ホーム「おおたきの杜」収束までの記録

「一方で感染者は急速に増え、19日には59人に達した。その日の現地対策本部での打ち合わせを経て、陽性入居者の谷体が悪化しても入院先が確保できないので、施設内での看取り体制を整備するよう通達を受けた。」

### なぜ「納体袋」が…

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を取っていました。と振り返る。

当初は食堂や浴室のある1階をグリーンゾーン(清潔区域)、4人部屋中心の居室がある階をレッドゾーン(汚染区域)としていた。職員はいったん廊下で介護に入ると休憩場所もなく、飲食もできないまま働くことになってしまった。食事も個々のマイカーでとるなどしていた。

クラスター認定された翌日、昨年12月17日、札幌医科大学で感染症制御が専門の高橋隆さん(日本感染症学会理事)が現場入り。「このままではスタッフが疲れてためになってしまふ。スタッフを守ること、2階にもグリーンゾーンを設けて職員が休憩や飲食ができるようにする。さまざまな対応方法を決めてくれた。」

### ボードで情報共有

おたきの杜施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

## 病院移送は無理… 通達に衝撃 / 激励に救われた

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

### 偏見持たれず安堵

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

### 病院は受け入れ不可、悪化したら施設で死なせないというに等しい宣言

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。

「おたきの杜」施設長の井谷重孝さん(46)は、丁寧な毎日で、通常の記録を残さずなくなってしまい、ホワイトボードを書き換えながら変化が分かるよう、2時間おきにボードの写真を撮っていました。と振り返る。



介護所から託された納体袋。封を切らないまま返却することになった。金庫先に備えた地元からの支援物資。

幸清会 胆振管内を中心に介護事業を展開する社会福祉法人。特別養護老人ホームなどの施設系、デイサービスなどの居宅系を合わせて40の事業所に、700人が働いている。

